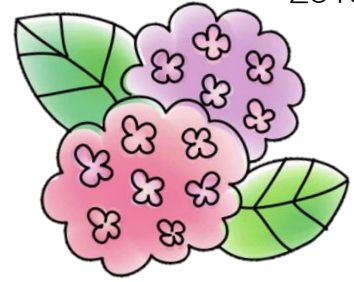


あじさい



「さっぽろ4支部合同 助産師職能研修会」 令和元年7月20日(土)

令和元年7月20日(土)に読売北海道ビルACU-Yにて札幌4支部合同助産師職能研修会・交流会を開催しました。

午前は、「産科救急に関する研修～母体死亡の現状と救命のためのスキル習得～」をテーマに、札幌医科大学附属病院 産科周産期科 助教授 染谷真行先生にご講義頂きました。一次施設から高次施設まで、それぞれの施設よっての機能と助産師に求められる役割の違いや施設を超えた連携の大切さを再認識しました。母児両方の命を預かる助産師として、緊急時に備え日々できることを一人一人が考え課題を見つめ直す機会となりました。

また、午後は、「CLOCMIP®関連研修 新生児のフィジカルアセスメント～緊急を要する新生児

疾患～」をテーマに、北海道大学病院 産科周産母子センター診療教授 長和俊先生に講義頂きました。先生の経験を交えたわかりやすい講義と写真から正常異常の見極めを学び、緊急を要する新生児の状態について事例を用いて学ぶ事ができました。新生児の側にいる助産師だからこそ気がつけるポイントを具体的に教えて頂き、明日からの実践にすぐに活かせる研修となりました。

参加者は、午前 142 人・午後 146 人と昨年より多くの方に参加して頂き、皆様の関心も高く有意義な研修となりました。今後も助産師の実践能力向上の一助となるよう研修を企画していきます。よろしくお願い致します。



午前の研修の様子



午後の研修の様子

看護師職能研修会 令和元年8月10日(土)

令和元年8月10日(土)ロイトン札幌にて173名(非会員28名含む)の方にご参加いただき、札幌第2支部看護師職能研修会を開催しました。医療法人北仁会旭山病院 看護師長 南敦司先生をお招きして、『あなたのかかわり方ひとつで相手が変わる～明日から実践できるカンフォータブルケア～』と題しご講演いただきました。

南先生は、『カンフォータブルケアは、超少子高齢化社会を迎える日本にとって、あらゆる場所における認知症の方への対応技術であり、認知症の方の脳の変化を理解することで、どのようにケアすると良いのかが解る。』と話され、具体的事例と実技が盛り込まれた講演は、参加者の真剣な面持ちの中に、時に笑いももたらししてくれるような有意義なものとなりました。

交流会には36名が参加し、認知症患者のケアを実践する中で各施設の具体的な困難事例を通し、グループでの意見交換を行い、ご厚意で参加していただいた南先生からアドバイスを頂きました。看護師職能Ⅱ領域の参加者から、認知症患者の身体抑制解除に取り組む中で、以前南先生の講演に参加したスタッフを中心に講演で教わったことを2年ほど実践しており、抑制を解除してもインシデントが増えていないという話を聞くことができました。

アンケートからは、「すごくわかりやすくとても良かったです。」「日々の看護につなげたいです。」といった参加者の声を聴くことができました。次年度の研修につなげていきたいと思えます。



研修会の様子



交流会の様子

《 編集後記 》

令和となり数か月が経ちました。そして、いよいよ10%の税が課せられる時期が近づいています。時代の移り変わりは早く、特に歳を重ねるたびに時間の経過が走馬灯のようであり、気づいたらこんな歳になっていたと感じるこの頃です。それでもやっぱり、看護師を仕事に選び、時と共に自身の成長を喜べるのが幸せなんだと感じるのは歳をとったおかげでしょうか。これからも変化していく時世を肌で実感していきたいと思えます。

広報出版委員 K・S

